

県内の幅広い地域を対象とした支援をめざして ~フードバンクおおいた~



大分県では、県社会福祉協議会(県社協)により、県域を活動範囲とする「フードバンクおおいた」が2016年6月に設立されて1年が経過した。

設立のきっかけは、貧困課題に対して県社協としての取り組みを具体化することだった。わが国の子どもの6人に1人が相対的貧困状態にあるとともに、母子世帯における貧困が社会問題となるなか、県社協では県内の幅広い団体に呼びかけてフードバンクの設立準備を進めてきた。

フードバンクの窓口を担当している県社協ボランティアセンターに、これまでの取り組みと、今後の事業の方向性について伺った。

多彩な団体が参画し、設立1年を迎えた県域での支援活動

フードバンクおおいたは、その設立時から、県内の21団体が参画する「推進協議会」を設けています。これは県内の幅広い分野の団体が参画し、県域を見据えた情報交換と、ネットワークによる幅広い支援をめざしたものです。半年に1回の定例会議とともに、フードドライブ(食品を集める取り組み)や食品提供などのさまざまな事業に協力しています。

フードバンクおおいた推進協議会 委員の所属団体・組織

- 社会福祉関係団体
 - ・大分県老人福祉施設協議会
 - ・大分県民生委員児童委員協議会
 - ・大分県老人クラブ連合会
 - ・大分県社会福祉協議会
 - ・大分県ボランティア連絡協議会
 - ・大分県社会福祉士会
 - ・市町村社会福祉協議会(佐伯市)
- 経済関係団体
 - ・大分県商工会議所連合会
 - ・大分県商工会連合会
 - ・日本青年会議所九州地区大分ブロック協議会協同組合
 - ・全国農業協同組合連合会大分県本部
 - ・生活協同組合コープおおいた
- 委員の所属団体・組織
 - ・九州労働金庫大分県本部労働組合
 - ・大分県労働者福祉協議会
 - ・大分県教職員組合
 - 食生活関係団体
 - ・大分県食生活改善推進協議会
 - ・大分県栄養士会
 - 県内のNPO団体(こども食堂実施団体)
 - ・福祉コミュニティKOUZAKI
 - ・たすけあい組織 鼓樓
 - 行政
 - ・大分県福祉保健部地域福祉推進室
 - 学識経験者
 - ・大分大学教育学部

市町村とのつながりを活かす

フードバンク設立にあたっては、実際に生活に困窮した方々が相談に訪れ、食品を受け取る窓口となる市町村社協に、ていねいな説明を行いました。当初、市町村社協からは「食品を置くスペースがない」「手間がかかるのでは」など、戸惑いの声もありました。

このようななか、県社協では、市町村段階での取り組みを進めるための仕掛けを設けました。フードバンク設立の2016年度には、県社協の自主財源を活用して「フードバンクおおいたモデル市町村事業」(現在も継続)を行いました。初年度は、県内4市(豊後高田市、別府市、佐伯市、日田市)社協の協力を得て、市町村にフードバンク実施に関わる食品保管庫などを整備しました。社協の窓口相談に訪れた生活困窮の方々に、市町村社協の判断で必要に応じて食品を渡していただくことで、取り組みの機運を高めてきました。

生活福祉資金の貸付などの相談とあわせ、市町村社協の判断で一定の食料支援ができることで、直接相談を受ける相談員の方々など、相談を受ける側の対応の幅が広がりました。また、相談に来る方も安心感が持てるとの声が寄せられています。

生活困窮の方々の自立支援につながる一つのきっかけとして、フードバンクの支援が役立つ可能性があることへの理解が、市町村社協の皆さんにも広がっています。

こども食堂への支援も重点に

現在、フードバンクからの食品提供は、生活困窮の方々への緊急支援とともに、県内のこども食堂への支援も主要な事業として取り組んでいます。現在、県内20か所に広がっているこども食堂を食品面から支えるもので、主に米などの主食を中心に支援しています。県内でこども食堂を立ち上げ、継続的に進めていくためには、多くの食材を提供できることが理想です。しかし食品寄贈の状況により、まだすべての要望に応えることは難しくなっています。

また、フードバンクおおいたでは、活動に対する市民への理解促進を目的に「フードバンクキッチン」を行っています。地域の子どもや母子、高齢者に参加してもらい、親子料理教室としてフードバンクに寄付された食材を使用して料理を作るとともに、交流の場を設けています。これまでに、調理師、栄養士や大学生ボランティアの協力を得た交流や学習の場、フードバンクキッチンの開催とあわせた学習支援の取り組みを進めて



フードバンクキッチン

きました。今後、県内の各ブロックでの開催をめざして取り組んでいきます。

県社協の取り組みへの安心感

フードドライブは、フードバンク設立時の賛同企業に加え、現在は県内の食品企業組織「おおいた食品産業企業会」からの支援も得ています。

また、推進協議会のメンバーであるコープおおいたでは、お中元、お歳暮の時期にあわせて宅配時に食品寄贈を受けたり、店舗に食品寄贈コーナーを設けてもらっています。さまざまな機関や団体から、「県社協が取り組んでいるから安心して協力できる」との言葉をいただいています。最近では、伊予銀行大分支店の70周年の取り組みとして、銀行の窓口でフードドライブを行いました。70周年を記念して、70品以上の食品を寄付いただく取り組みでしたが、予想以上の食品寄贈をいただきました。

寄贈された食品は、県社協に設けたスペースで保管しますが、元はレストランや職員休憩スペースだった場所を活用しています。寄せられた食材の賞味期限や保管状況は、パソコンに入力して分かりやすいように管理をしています。これからもていねいな食品管理をしていきたいと思っています。

多様なネットワークを活かし支援

フードバンクおおいたの独自の取り組みとして、寄贈された食品を市町村社協を通じて配布することに加え、県社協として緊急的な生活困窮の方々への支援も行っています。

今年5月の大型連休を前に、県内の社会福祉法人(社会福祉施設等)による社会貢献の基金からの財源提供を受け、購入した食品を、緊急食料支援として活用しました。

活用にあたっては、ボランティアの協力により、3日間(9食分)の食料セットとして66セットを用意し、18市町村の社協を窓口として、生活に困窮された方にお配りしました。県内の社会福祉

法人の協力を得ることで、食品寄贈に加えた独自の支援の仕組みを築くことができました。

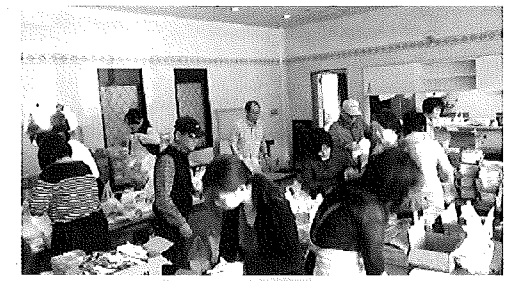
また、フードバンクおおいたの目的の一つに、災害被災者への支援があります。今回の九州北部豪雨災害でも、緊急時の食料支援にすぐに対応し、3日分の食料支援をする「3日分セット」を提供しています。

あわせて、一時期に大量に届く食品がある場合や、生鮮食品などで賞味期限が近い場合などは、本来の支援先である生活困窮の方々やこども食堂への支援に加えて、県内の社会福祉施設にも打診を行い、食品を活用いただく場合もあります。これらは、県社協が実施主体となることで、県内の幅広い社会福祉関係者の方々の協力を得ることができた取り組みだと思います。

ボランティアセンターだからできること

フードバンク事業を、ボランティアセンターが窓口として実施するメリットもあります。例えばボランティアセンターを訪れた方に、ボランティアとして食品の仕分け、発送に関わっていただいたこともありました。企業の社会貢献担当の方が「何かボランティア活動はありませんか」と訪ねていらっした際、「フードドライブという社会貢献の方法がありますよ」という提案を行うこともありました。

食品を寄贈いただくのがフードバンクの入口とすると、その食品を必要な人、必要な場所に届ける出口として、市町村の窓口や相談機関、社会福祉施設な



食品の仕分けの様子

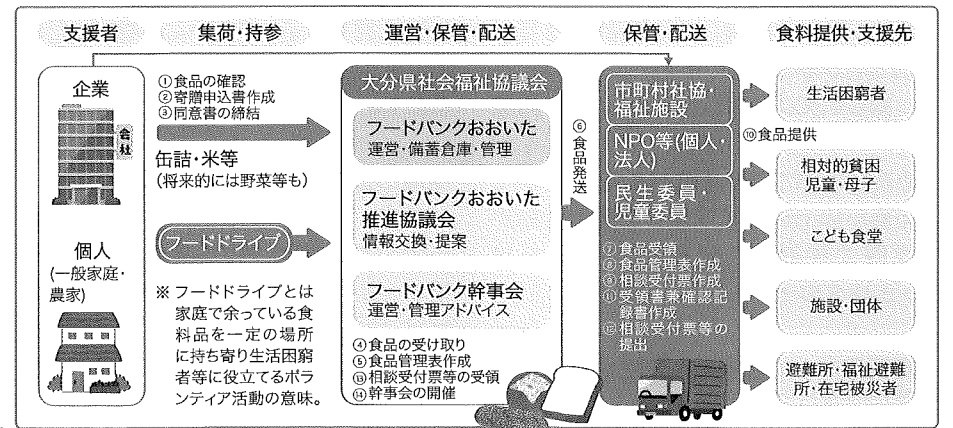
どとつながっているメリットは大きいと思います。とくに出口としての食品の活用先は、私たちでは、個別支援を要する方々に対して、どこまで支援を続けられるのか判断できません。その点で、市町村段階の相談窓口が関わることは大変重要だと考えています。

学校との協働も検討課題

フードバンクおおいたの設立目的である「子どもの貧困課題」に対する対応として、今後、教育現場への働きかけも重要と考えています。その窓口として、学校のスクールソーシャルワーカーとの連携も検討しているところです。

また、市町村社協を窓口にしたフードドライブも進めていきたいです。大分県では地方部も多いのですが、フードバンクは、住民に身近な市町村段階で当初ニーズがないと捉えていても、取り組むとだんだん広がっていく事業であることを実感しています。

県段階で関わる私としては、みなさんの善意が予想を超えて集まることに、日々驚き、感謝しています。こども食堂への支援などは、県での受け入れ設備を整えて、冷凍・冷蔵食品や日持ちのする野菜なども扱ってきたいと思っています。



事業概要図

「東日本大震災復興支援IT NPO応援プロジェクト」助成
助成対象:岩手県、宮城県、福島県で活動する民間非営利組織
締切:2017年8月31日(木)(必着) 詳しくは「日本NPOセンター」ホームページをご覧ください。

司法福祉全国研究集会(主催:公益社団法人日本社会福祉士会)
日程:2017年9月30日(土) 会場:上智大学(東京都新宿区)
対象:司法福祉に関心がある方、立場を問わず。詳しくは「司法福祉全国研究集会」で検索してください。